

全力結集

近年、深刻な問題となっている自然災害や気温変化。畜産現場においても、その対策やリスク管理が求められています。これらの課題に対応し、生産性向上につなげるため、各地域で生産者やJAと連携して取り組んでいる内容をご紹介します。

JA東日本くみあい飼料株式会社



討論会はグループに分かれて実施

改めて共有する 酪農業の経営リスク管理

JA東日本くみあい飼料株式会社は、2月26日に「第7回酪農後継者勉強会」を群馬県JAビルで開催しました。この勉強会は毎年2月に開催しており、関東の酪農家・農協担当者・関係機関の方に参加いただいています。今回は50名の方にご参加いただきました。

この酪農後継者勉強会は、次世代の酪農を担う後継者の方を対象としてスタートしました。今後の酪農経営に活かしていただくために、毎年、業界のスペシャリストを講師として招聘し、生産性向上の取り組みやこれからの酪農業界の方向性をお話しいただいています。また、弊社の社員が現場で実践したカウコンフォートの取り組みなどを紹介する事もありました。今回の勉強会では、「酪農経営におけるリスク管理」をテーマとして、グループディスカッションに取り組みました。参加者同士が互いの考え方を知る事ができるように、7つのグループに分かれて討論し、最後に討論内容を発表し合い、共有しました。

特に、近年被害が拡大している自然災害については関心が高く、どのようにリスク管理をしていくのが良いかなど、具体的な取り組みを交え積極的に意見交換がされました。

また勉強会の後半には、株式会社MYDS(エムワイディーエス)の



研修会の様子

小黒幹史まさし獣医師を講師にお招きし、「臨床獣医師から見た栄養・疾病・繁殖」をテーマに講演いただきました。小黒獣医師は群馬県・利根沼田地域を中心に一般診療から繁殖検診、更には酪農ヘルパーの派遣と多方面で活躍されており、それらの経験から得られた内容をお話しいただきました。参加者からは、「現場に即した内容で勉強になった」という声をいただく事ができました。

畜舎の夏場対策事例とその効果について

近年の夏といえば梅雨時は蒸し暑く、盛夏は強い日差しが照りつけるため、厳しい暑さへの対策は重要といえます。

九州の農場においても近年大型化が進み、豚舎の更新が進んでいますが、未だに小口生産者も多く、断熱材のないスレート屋根を使用している生産者も多く見られます。そこで当社では、生産者の生産性向上を目的に9年前から屋根石灰塗布の取り組みを行ってきました。

熊本県内の2019年8月の晴れた日の温度推移を見ると(図1)、九州地区の天候の特徴として最高気温の高さもさることながら、日差しが強く、夕方以降も高温が続く事があります。また20時頃まで暑い時間が続いているのが分かります。更に、雨量が多いため湿度が高く、豚にとっては過酷な飼育環境といえます。

図2は屋根石灰塗布の有無による舎内の最高温度を比較した試験

の結果です。

舎内の最高温度を見ると平均約37℃(最大7℃)の差があります。屋根を白く塗る事で強い日差しを反射でき、畜舎の温度上昇を軽減できます。

一般的な断熱塗料は約1500円/m²のところ、石灰塗布では1袋で約30~40m²塗る事ができるため圧倒的に低コスト(約1/30)で

済みます。

ただし、耐久性が約4~5ヵ月程度のため、毎年塗る必要があります。雨どいがある豚舎では、剥がれた石灰による雨どいの詰まりにも注意が必要です。

石灰乳の作り方は、「ホワイトD(ドロマイト系消石灰)」を約3~4袋に対して水約350Lで希釈します。攪拌の際にはモルタル接着剤を少量混ぜると、耐久性を上げ

る事ができます。消石灰は生石灰と異なり、水に溶かした際に高温になる事はありませんが、強アルカリ性のため、散布の際の化学やけどには注意が必要です。

夏場、屋根への石灰塗布は防護服を着て実施するため、熱中症に気をつけながらの作業となりますが、当社では重要な活動として生産者と協力しながら毎年継続しています。

ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社



科学飼料研究所と協力して改良した散布機(ガンズル付)



塗布作業後の畜舎の屋根

図1 熊本県内の日中最高気温推移(2019年8月)

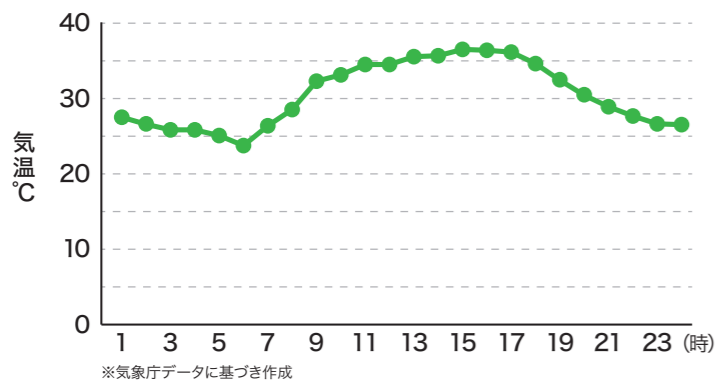


図2 舎内最高温度

